令和元年度　長野市観光振興審議会　会議録

日　時　令和２年２月４日（火）　午後２時から午後４時 20 分まで
場　所　市役所会議室 203（第二庁舎 10 階）
出席者　委員（14 人中 12 人出席）
　　事務局８人
　　観光振興計画進捗管理ＳＣＯＰ２人
　　報道関係者　市民新聞１人

１　議事（議長：笠原会長）
（１）　長野市観光振興計画の進捗状況について
（２）　観光振興課の事業について
　　資料１　平成 30 年度長野市観光振興計画の進捗及び指標達成状況について
　　資料２－１　平成 30 年度長野市観光振興計画に基づく事業実績及び評価－抜粋－
　　資料２－２　平成 30 年度長野市観光振興計画に基づく事業実績及び評価
　　資料３　2019 年度長野市観光振興計画アクションプラン観光作業部会進捗報告
　　資料４　令和２年度以降の政策・施策の進め方について
　　以上の資料に基づき事務局説明

２　質疑応答、意見など
（１）　長野市観光振興計画の進捗状況について
　<u>資料１　平成 30 年度長野市観光振興計画の進捗及び指標達成状況について</u>
　　【４（２）観光入込客数】
委　員：観光地への入込数、令和３年の予想値は善光寺の御開帳を見込んでいるが、併せて戸隠神社の式年大祭も行われ、戸隠の入込数もかなり増える事が予想される。平成 27 年度前回の式年大祭の数字はどうなっているのか。そのへんをもう一度見直して欲しい。
事務局：ご指摘のとおり戸隠の式年大祭が数字の伸びの部分で計画算出方法に活かしきれていない。今後策定の中で参考にして取り入れていきたい。
委　員：１（１）①に観光は経済活動ですとある。観光はあくまで経済活動、これをいかに活性化させるかが大きなテーマであり、最終的には長野市にお金を落としてもらうことが究極の目的となるはず。長野市が経済活動上、他の地方都市に比べて優位に立って、そこに住む人々が豊かな暮らしができるかが最大の目標になる。その中で観光地の誘客の施策はそのための手段ということを確認しておきたい。
　　【４（１）各観光地の認知度】
　　この認知度は「知っていますか」という程度か。

ＳＣＯＰ：認知度に関しては単に「知っていますか」ではなく「大変よく知っている・知っている・聞いたことがある・知らない」の４段階で聞いている。その回答の中の「知らない」を除いたものを認知度と設定した。インターネットの調査システムを利用し、約 1,000 人に長野市の情報を示した上で「認知していますか」と聞いた結果である。

委　員：それに基づき、３つの大きな重点拠点である善光寺・戸隠・松代の目標値に対する実績値について質問したい。戸隠を例にすると令和元年度の目標値が 85%、それに対して実績値が 61%、つまり８割程度しか認知されていない。令和３年度の目標値は 90%まで上がるが、８割程度の数値であれば 65%前後に推移する可能性がある。このへんが観光地としてのひとつの生命線であるかなと思う。また、松代に至っては目標値の 70%に対して約半分しか認知されていない。この分だと令和３年度も目標値の 80%に対して半分程度の認知しかされないだろう。この乖離の幅を今後どのように埋めていくか、しっかり議論をしていかないと、結果として数字のお遊びになってしまう点を注意していかなければいけない。

【４（２）観光入込客数】

相対的に御開帳の年は入込客数が大きく増加しているのが、これまでの実績である。これは波及的に善光寺に訪れた人が周辺の観光地にも足を延ばし、結果として戸隠、松代、ややもすれば茶臼山公園まで数字が伸びている。善光寺御開帳の２ヶ月間は相対的に観光地全部ボトムアップして静かに鎮静化していく傾向だ。そうなると先程も指摘があったように令和３年度の目標値について、戸隠・松代はもっと高みを目指せるはずである。善光寺御開帳特需を単にフロックと考えることなく、長野市の場合は、あらゆる都市構造や人の動き、導線が善光寺の御開帳を一単元にして動いてくる。街づくりもそうである。そういう意味でその数字を決してフロックと思わず、根付いた数字と捉えていかないと観光的な手段としての発展は望めないのではないかと思う。

【評価の欄　戸隠の長年の課題である「冬の観光」・・・】

ご存知のように飯綱高原スキー場が今年度末で閉鎖になる、大座法師池周辺の観光施設は山の駅も建設され本格的なグリーンシーズンへのシフトがスタートする、元年にあたる年となる。そう考えると観光資源の戸隠と同時に飯綱エリアは同一エリアとして切っても切り離せない、地政学的な状況が生まれるはずだ。今後は「戸隠・飯綱エリア」としてあらゆるデータアップをしたほうが精度の高いものになると考える。

【４（３）市内宿泊数】

総宿泊客数は基準年を平成 27 年の　140 万人、ここから平常年をスタートし毎年２％平均で伸びている。そして令和３年度は御開帳の年で前年比 17%伸ばしている。しかし平成 27 年の御開帳の　160 万３千人を基準にして、令和３年の次回御開帳の 176 万３千人は 10%しか数字が伸びていない。この数字的な齟齬を、もし表に出すの

であれば、突き詰めないとあやふやな数字になるのではないかと心配する。

【評価の欄　よって今後は、特に日本人観光客をターゲットとし、・・・】

もちろん外国人客が伸びていくのは絶対大事であるが、残念ながら自然災害とか、今般のコロナウィルス等の疫病、国際的な政治問題などが主要因となって観光客数の増減に大きなリスクを与える。これは国際的な課題となるが、特に日本の場合は避けられない現実である。ましてや長野市の入込客は東南アジア系が圧倒的にウエイトを占めている。どうしても日本人観光客をターゲットにせざるを得ない背景があると思うが、宿泊を含む観光消費額を基準に考えると、外国人旅行者は捨てがたい魅力がある。資料として東京の森ビルの森記念財団の都市戦略研究所から毎年公表される「都市の特性評価」が国際基準になりつつある。世界の主要都市、日本では地方都市のランキングで、外国人来訪者数は大きな指標として診断される現実がある。実は長野県では長野市と松本市が調査対象になっているが、特性評価の最新版では松本市が全国 10 位、長野市が 18 位。これは 28 のアイテムの中での評価基準を総合的に評価した得点数で競っているが、県庁所在地である長野市が松本市の後塵を拝することは、決して良いことではない。オリンピックをやった訳だから国際評価を高める点でも日本人にターゲットを絞ることなく、外国人にとっても魅力のある観光地を目指すべきではないか。

<u>資料２　平成 30 年度長野市観光振興計画に基づく事業実績及び評価</u>

【政策１　観光地域づくりの実践】

委　員：人材育成改革の一環として昨年長野市でも、商工・観光・農林の３つの分野で民間の人材を採用する方向になったと聞いた。特に観光分野では民間からの人材育成をどのように進めているか。

事務局：戦略マネージャーとして新聞等で報道されたもののことだと思う。商工・観光・農林、それから全体を掌握する方といる。実は現在各状況を把握しているところ。今後、各分野の方達が集まったところで提案等いただき、職員との意見交換も併せて行っていく。観光振興計画に反映する部分があれば委員の皆様にはご報告する予定である。

委　員：候補者は、ある程度絞られているのか。

事務局：昨年の 12 月に選定は終わっている。

議　長：どういうふうに誰に伝えるのかを意識するとか、コンテンツを磨き上げるとか、これは永遠の課題である。人材についても現在取り組みが行われているということだ。

【政策３　地域に根ざしたインバウンドの推進】

委　員：長野市に来る外国の方が、どこを目指して来るのかは調査しているか。東口には白馬に向かう方が大勢いる、長野駅も時間帯によっては外国人の方が多い。この方たちが長野市で宿泊・観光すれば相当潤うと思う。また、スノーモンキーや金沢に行って

長野に来る方も多い。他地域との連携も考え、今後、外国人の観光客に向けた調査が必要と考えるが、いかがなものか。

事務局：東口には志賀高原行きのバスでスノーモンキーへ向かわれるインバウンドのお客様が多い。この方達の宿泊は長野ではない。長野周遊のバスは少ないのが実情。しかし定点観測ではないが、表参道を歩いている外国人の方が多いと実感する。昨日の節分会でも善光寺にいらっしゃる外国人のお客様はたくさんいる。それを活かしきれていない部分があるのは、ご指摘の通りである。

事務局：計画策定時に長野駅の観光情報センター、それから主要ホテルにお願いして、外国人の方にアンケートを実施し 116 人から回答があった。「何を目的で長野に来ましたか」と「長野でどこへ行きましたか」という調査をしている。やはり一番は善光寺である。その後どこへというと京都、湯田中（スノーモンキー）、東京、松本と広く周遊していることがわかった。この調査は次回の計画策定に合わせて改めて実施したいと思う。いずれにしても外国人の方は広域で動いているので、白馬・湯田中へ行く方は通過しているだけなのか、金沢市は観光プロモーションパートナー都市で、インバウンド関係で試験的モニターツアーもしているので、金沢へ行った方が長野に来てもらうような取り組みも少しずつ行っている。また調査をし、今後に活かしていきたい。

委　員：専門人材は今何名くらいいるのか。

事務局：専門人材育成という言葉が出ているが、実際この方がということでなく、今のところは研修会を開催、外国人向けの商売をされている方の意識を高める、意識を改革するレベルに留まっており、人材を何人育てたには至っていない。本当は各商店街でリーダー的な人が出てくればいいが、まだその段階ではない。

委　員：観光事業を活かすための専門人材をつくるとしたら、長野市が何らかの形で担保しなければならないと思うがどうか。

事務局：ご指摘の通り、専門人材は大変難しく、規模の状勢などを計りながら育成を続けていきたい。今、長野市には国際交流員等派遣されている。この方達を英語の研修会等に派遣したり積み重ねながら検討したいと考えている。

議　長：市が取り組む専門人材だと、例えば市がコンベンションを誘致する時、専門の方がいるということになる。我々も鉄道に大勢の方乗られる為、運転手や車掌は自主的に英語をやらせている。自主的にやらせるという言い方はおかしいが、やはり必要に応じて身についてくる。例えば湯田中などはＯＢの方だが、電話ではダメでも相対すると結構やっている。それをやらなければ商売になっていかない人は結構熱心だ。だから市でやることは、また別の要請になるのではないか。

【政策４　特色あるコンベンションの誘致促進】

議　長：この「長門有希ちゃんの消失」など、実際に行けば長野市内に痕跡はあるのか。

委　員：アニメーションの聖地 2020 年度に選出されている。

事務局：長野駅・中央通り・善光寺・青木島のツルヤ界隈などがアニメに中に登場する。
議　長：新海さんのアニメのように聖地として、何かメモリアルが無ければわかりづらい。
委　員：今の話はアニメーションだが、テレビとかＣＭを含めロケ地マップを現在作製している。観光の認知度に貢献するので出来上がったら報告する。
議　長：それが観光コンテンツに繋がる。是非わかるようにして欲しい。

資料３　2019 年度長野市観光振興計画アクションプラン 観光作業部会　進捗報告

議　長：「ロクモンＧＯ！」のコンテンツに載っているのは峠の釜めしか。
事務局：（松代）地域の事業者として協賛をいただいている。

資料４　令和２年度以降の政策・施策の進め方について

委　員：忘れて欲しくないのは地域の歴史と文化の掘り下げの中での磨き上げである。それもマニアックなくらい深く狭く掘り下げ、本当にホンモノだと感じないと、日本中から、世界からお客様を呼ぶのは不可能である。先日、今食べられる野生のキノコをたくさん食べさせてくれというお客様が来た。アメリカのキノコの本を書いた方で、諏訪でキノコの世界大会があったようだ。そういうマニアックな世界で外国からお客様が来ることもある。観光とは神と仏と武士（もののふ）の道というのが、共通した長野の統一した方向性だと考える。例えば松代のテーマは武士道だと思う。世界の人も興味がある武士道を深く掘り下げ、過去のものを現代に蘇らせて体験させるというのはどうか。文武学校という禅や武道系の武士（もののふ）の道を体験できる素晴らしい環境もある。そこを中心に世界を相手にするくらいの意気込みで取り組んでは欲しい。
委　員：松代では食とお土産の開発に取り組み、ロクモンＧＯ！を始めた。昨年の４月１日に信州松代観光協会も発足した。松代にはホンモノがいっぱいある。長野市の方にもっと松代に来て欲しいことが一番の希望だ。真田十万石まつりで、お殿様役の市民の方から松代にこんな凄い祭りがあったのかと言われた。65 回目を迎える真田十万石まつりをもっと知ってもらうために、今年は長野駅のコンコースに大きなチラシを掲げＰＲしたいと考える。是非、応援して欲しい。
議　長：最後に資料１の「各観光地の認知度」に対して意見したい。お釈迦様が何故説法に行くのかという話である。お釈迦様は人間には３種類ある、①説法しようがしまいが、あんな馬鹿なやつの言うことなんか誰も知らないという類の全然聞き入れない人、②もうそんなことはわかっているよと非常に善良な人、③あぁ、そうだったのか、そんなことは今まで知らなかった、では信じましょうという人である。最後の１／３の方がいるから、私は説法するとお釈迦様は言っている。認知度というのは難しいが、実績があり、その目標に対し、来てくれる方は②の方で知っているから来ていることになる。説法の話の通り、市が広告やら色んなことをやって、それが③の方にぶつか

れば認知度は増えていくのである。コンテンツは民間が磨き上げなくてはならない。そういう場をつくるのが市町村の役目である。長野市がつくっている大門の商業集積のようなインフラ的なものや広告的なものに対して観光振興課が尽力、ブラッシュアップして欲しい。

（２） 観光振興課の事業について

議　長：国土交通省が中心となって中部北陸９県へのインバウンドを増進させることを狙いとした昇竜道プロジェクトがある。長野市もインバウンドのお客様が増えているのだから積極的に参加してはどうか。もう少し広域に還元し、情報交換できれば、先程の外国人のお客様の動向についての質問への答えも明確になる。

事務局：長野市も加入したい旨、昇竜道の事務局と国土交通省と話を進めている。